

茅川砂防 フィールドミュージアム かわら版 第5号

発行：平成25年2月
茅川砂防フィールドミュージアム実行委員会
国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所

新潟県中越地震により大規模土砂災害が発生した茅川流域での経験を将来につなぐ活動に関わる情報を発信しています。

「茅川砂防フィールドミュージアム」今年度の主な活動から

平成22年度から歩み始めた茅川砂防フィールドミュージアムづくりですが、3年目となり、取組みの成果も現れ始めました。

この「かわら版第5号」は、平成24年度をしめくり、今後につなぐための報告をまとめました。

いつも読んでくださっているみなさま、ミュージアムづくりを応援してくださっているみなさまにお礼を申し上げます。

——— 第5号の主な内容 ———

- 1P 今年度の主な活動から
- 2P 委員会の報告
(第2回作業部会・実行委員会)
- 3P 学校の防災教育をお手伝い
- 4P こんな取組みも！(やまこし検定)
ミニ知識

◆今年度の取組みとこれから

● 砂防ガイド講習会(9月)

山が多く地震国の日本で安全安心に暮らす上で、新潟県中越地震の経験と教訓は貴重な財産となりました。

茅川流域には中越地震による土砂災害からの復旧や被害拡大を防ぐために建設された砂防施設等がたくさんあります。地域のみなさまが当時の現場状況や砂防施設の働き、砂防事業の役割などについて理解を深め、子供達や来訪者に伝える活動に加わっていただけることを期待して、ガイド講習会を開催しました。

山古志内外から大勢の方が参加下さり、「興味深かった」「これからも実施して欲しい」などの声をいただきました。今後はガイドツアーとしての活動展開や継続のしくみ作り、情報発信などにも取り組みます。

● つなごう山古志の心展への出展(10~11月)

心展を主催する山古志住民会議から機会をいただき、砂防展示を行いました。計画中の山古志復興交流館を茅川砂防フィールドミュージアムの情報拠点とする計画であることから、展示物による情報発信の試行という意義があり、来場者のみなさまの反応や映像の有効性などを確認することができました。



委員会の報告

◆第2回作業部会

「砂防講習会」「心展」の成果確認、それをふまえて震災メモリアル施設として計画されている山古志復興交流館（仮称）の活用を含め今後活かすための検討、フィールド整備に関する意見集約などが行われました。

看板設置（総合案内看板・砂防説明看板）については具体化段階に進むことが合意されました。



第2回作業部会（平成24年11月21日開催）

◆実行委員会

今年度の取組み報告と「実施計画書」の更新案をもとに、次年度の取組み姿勢や実施項目について議論が行われ、次のような方向性が確認されました。

- ・ガイド活動については、大人の社会科見学など、外部向けアピールの仕方を工夫していく。
- ・防災学習支援や防災訓練は、上流下流が一緒に取り組むことで芋川砂防フィールドミュージアムとしての意義がある。



実行委員会（平成25年2月7日開催）

- ・東竹沢地すべり跡地（山古志平野）などの現地整備については、複数の用途に適用できる整備方法も視野に、国・県・市等の関係部局で連携を図りながら進めていく。
- ・芋川砂防フィールドミュージアムは、「中山間地を守ることが国土の保全にとって大切であること」を発信する役割も担っていることを念頭に置く。
- ・平成26年度は震災から10年を迎え、大きな区切りとなる。そのため、平成25年度は重要な1年と考えて取り組む必要がある。

新実行委員長のご紹介



新実行委員長
澤田 雅浩 氏
（長岡造形大学建築・環境
デザイン学科 准教授）

前任実行委員長の平井邦彦先生から、しばらくはこの席を預かれとのご指示により、実行委員長を拝命致しました。

この芋川流域の災害対応はまさに、プロジェクトX的な素晴らしい事業として行われたという印象を持っています。

これだけの大規模かつ非常に最先端の土木技術が集積しているという地区が、全国にたくさんあるわけではないので、それをうまく活用して、山古志にお住まいの方々にもご理解を頂きつつ、外の方々にも国土を守ってゆく技術というものをきちんと理解をして頂いたり、その大切さというのを感じて頂けるようなミュージアムになればと思っています。（2月7日 実行委員会挨拶より）

こんな取り組みも！

● やまこし検定に砂防からも出題

地域の自然や歴史を語り継ぐふるさと創生基金事業として、スタートから3年目となったやまこし検定。中越地震と砂防についても合わせて語りつないでいただけたらと、芋川砂防フィールドミュージアム活動検討部会の提案によって砂防分野の問題が加えられました。

この検定は「やまこしふるさとガイド」をテキストとしていますが、今回、砂防のテキストとして芋川砂防フィールドミュージアムのポケットマップを各ご家庭に配布させていただきました。

地域内在住、勤務または山古志に想いを寄せる老若男女が山古志の由来や歴史文化について知識を深めようと受験されているようですが、さて、今年の手応えはいかがでしたでしょうか？

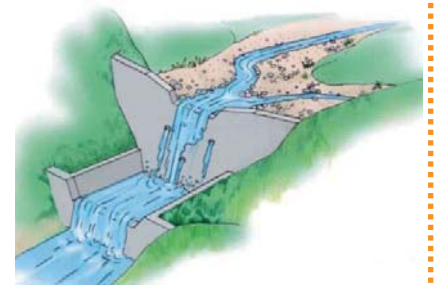
来年度も検定を実施するようですが、次回も多くの方に受験していただけることを期待しています。



★ 砂防の問題 例題紹介 ★

土砂災害を防止するために造られている砂防えん堤のはたらきとして正しくないのは次のうちどれでしょうか？

- ① 一挙に流れてくる危険な土砂を受け止める。
- ② 上流に水をためて、魚を育てる。
- ③ 上流に土砂をためて、山すそが崩れるのを防ぐ。
- ④ 上流側の水の流れをゆるやかにし、流れ出す土砂を調節する。



(答えは4P下部)

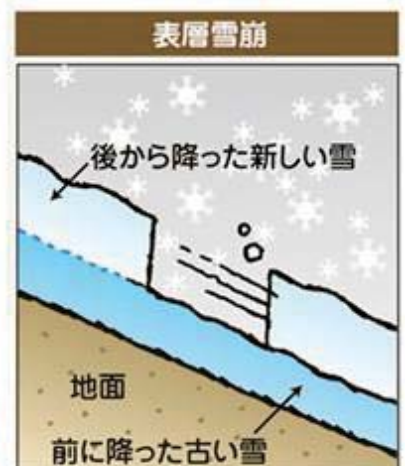
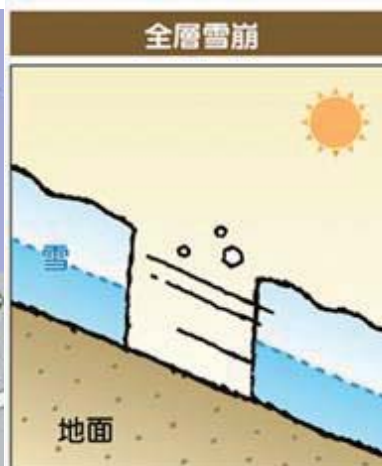
ミニ知識「雪崩（なだれ）に注意を！！」

全層雪崩（ぜんそうなだれ）

古い雪も新しい雪もいっしょに、地面をけずりながらくずれ落ちるもので、春先の天気がよくて気温が上がった日や、雨が降ったときなどに、雪がとけることによって起こります。

表層雪崩（ひょうそうなだれ）

先に積もった雪の上に新しくたくさんの雪が積もったとき、上に積もった新しい雪がくずれ落ちるもので、真冬の気温が低くて雪が降り続けている時期に起こります。



学校の防災教育をお手伝い

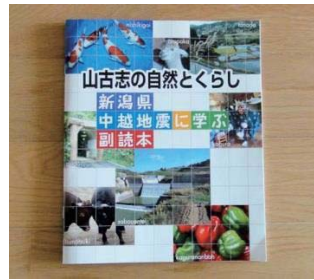
● 必要性和これまでの経過

山古志小中学校は地域の将来を担う大切な子供たちが元気に通っています。

先生方は長岡市街地から通勤される方が多く、また異動もあることから、山間部での土砂災害や危機管理についての知識や情報が少ない状況にあることがわかりました。

そこで、湯沢砂防事務所では先生方を対象としたミニ講習や授業を助ける砂防副読本の提供を行ってきました。

砂防の行政経験者から成る砂防ボランティアによる現地講習会も行われました。



上: 作成した砂防副読本
 右上: 副読本作成時の土砂災害についてのミニ講習
 右: 砂防ボランティアによる教師の現地見学会
 (以上、平成22年度実施)



● 今年度の実施状況

東日本大震災後、防災教育へのニーズが高まりました。そこで、芋川流域や学校周辺という目の前にあるフィールドと、作成した副読本を活用して、「土砂災害から身を守る」授業を積極的に進めていただくため、指導の手引きを提供することになりました。

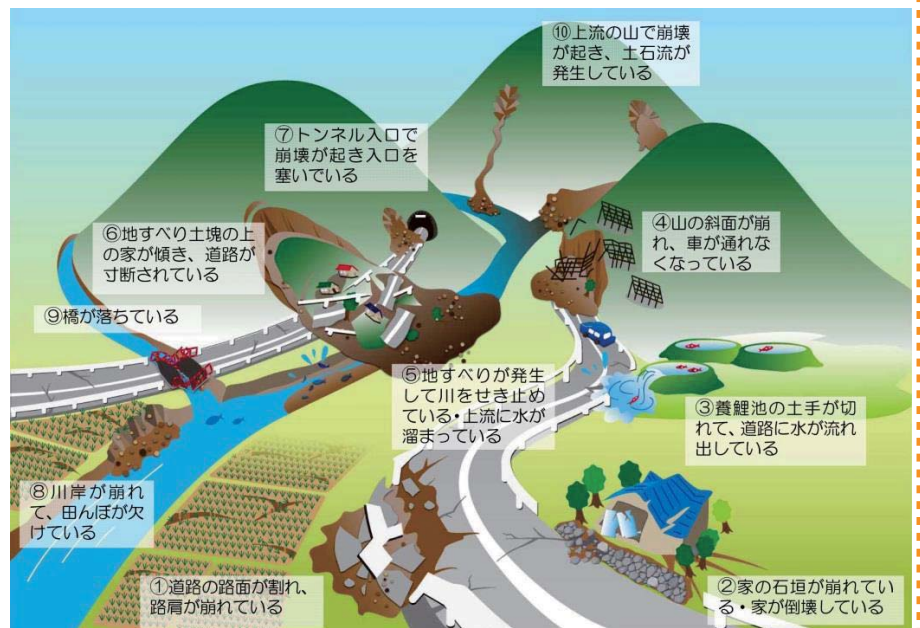
指導の手引き作成のための検討会
 (平成24年度)



● どんな内容?・・・例えば

現在の小学生は中越地震当時まだ生まれていなかったか、乳幼児だったため、災害体験の記憶がほとんどありません。

地震を対象とする防災教育では、人口の多い市街地での災害を中心とした教材が作られており、山での災害を教える教材が少ないことから、映像やイラストなど、わかりやすい教材を提供することとしました。



◆ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください◆



★事務局は湯沢砂防事務所が担当しています。
 国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所
 〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立23
 湯沢砂防事務所 流域対策課 Tel : 025-784-2926
 破間川出張所 Tel : 025-792-1105

3P例題の答え ②